

# 北京

## 日语导游

铁军/主编

エンジョイ北京



旅游教育出版社

H369.9  
95

# 北京

## 日语导游

铁军/主编



旅游教育出版社  
· 北京 ·

エンジンジョイ北京

责任编辑：李静

## 图书在版编目(CIP)数据

北京日语导游/铁军主编. —北京：旅游教育出版社，2005.7  
ISBN 7-5637-1308-5

I. 北... II. 铁... III. ①导游—日语—口语②导游—  
北京市 IV. ①H369.9②K928.91

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2005) 第 059725 号

## 北京日语导游

铁军 主编

出版单位	旅游教育出版社
地 址	北京市朝阳区定福庄南里1号
邮 编	100024
发行电话	(010) 65778403 65728372 65767462 (传真)
本社网址	www.tepcb.com
E-mail	tepfx@163.com
排版单位	北京幕友计算机技术开发中心
印刷单位	中国科学院印刷厂
经销单位	新华书店
开 本	850×1168
印 张	12.25
字 数	241千字
版 次	2005年8月第1版
印 次	2005年8月第1次印刷
定 价	22.00元

(图书如有装订差错请与发行部联系)

# 目次

一、北京の概況.....	1
歴史.....	1
面積と人口.....	2
地理と地形.....	3
水系.....	3
気候.....	4
行政区画.....	5
交通事情.....	7
教育、文化及び科学技術.....	8
大衆スポーツ.....	10
宗教と宗教活動.....	11
これからの目標.....	15
二、北京の街づくり.....	22
北京城の昔.....	22
北京の建築.....	27
三、北京の名所旧跡.....	37
中華第一街——長安街.....	37
天安門広場.....	59
故宮.....	65





中山公園.....	86
労働人民文化宮.....	91
菖蒲河公園.....	96
景山公園.....	98
北海公園.....	102
天壇公園.....	110
先農壇.....	120
雍和宮.....	122
鐘鼓楼.....	133
頤和園.....	139
香山公園.....	153
円明園遺跡.....	161
万里の長城.....	166
明の十三陵.....	175
白雲觀.....	183
東岳廟.....	190
孔子廟（首都博物館）.....	194
国子監（首都図書館旧館）.....	195
北京動物園.....	197
胡同観光.....	200
旧北京城の城壁.....	208
旧城門と城址公園.....	213
世界公園.....	219
中華民族園.....	220
盧溝橋.....	220

周口店北京原人遺跡博物館.....	224
<b>四、北京での「食」「飲」「遊」「楽」.....</b>	<b>231</b>
中国料理.....	231
北京にあるレストラン.....	232
日本によく知られている四大料理.....	232
その他の中国料理.....	244
北京にある世界各国の料理店.....	249
酒.....	251
茶.....	252
茶館・茶藝館関係.....	253
バー関係.....	259
カフェ関係.....	263
京劇.....	264
雑技.....	279
北京の祝祭日.....	282
ショッピング.....	286
北京の博物館めぐり.....	301
<b>五、北京の交通.....</b>	<b>343</b>
市外交通.....	343
市内交通.....	348
<b>六、北京市内便利メモ.....</b>	<b>351</b>
観光関係機関.....	351
航空会社関係.....	353
北京の病院関係.....	353
北京のホテル関係.....	356





北京の娯楽施設.....	369
付録.....	379
北京略史.....	379
明清時代皇帝年表.....	379
后记.....	382

# 一 北京の概況

## 歴史

北京が中国史上、初めて一国の王都に選ばれたのは、遠く3000年の昔、周朝の時代で、戦国七雄の一つとされた燕国がこの地に都を定め、「薊城」と呼びました。薊城の遺跡は今も北京の西郊外に残っています。その後、秦、漢、隋、唐、宋などの時代を経て、北京はずっと北方の重要な町として栄えました。隋唐の時代には、北京地区は「幽州」と呼ばれていました。

北京が本格的に歴史に登場したのは10世紀に入ってからで、五代十国の時代に、遼の副都として「南京」または「燕京」と呼ばれました。つづいて12世紀には金の都として「中京」と改称し、1272年元の首都として「大都」と命名されました。大都是、13世紀の世界では一頭地を抜いた大都会でありました。元朝に仕えたベネチアの商人マルコ・ポーロも、その著作「東方見聞録」の中で、大都とそれを造営したフビライの宮殿の壮麗、雄大さを賞賛しています。

明の時代に入り、「大都」を「北平」と改め、壮大な新宮殿の造営を始めました。その完成とともに「北京」と改称、正式に都としました。この時、新宮殿とともに建設された新都が今の北京の原形をなしています。

北京は明朝の280年間に引き続き、清朝の270年間にわたる治世にも王都として全中国に君臨しました。清朝は、北京占領と







ともに、内城に住む漢民族を南側の外城に強制移住させ、そのあとに譜代ふだいの臣である満八旗兵とその家族を住まわせました。また3代皇帝康熙帝は、漢民族風の町造りに手を加え、満州族方式をとり入れ、宮殿も模様変えしました。さらに、西郊外の一帯にあった明朝時代からの夏の宮殿を大々的に拡大しました。

一国の王都として、断続的に800年あまりの歴史をもった北京は長い歳月の中で、絶えず変貌し、発展してきました。と同時に、人類文明にとって数多くの文化遺産、壮麗、かつ雄大な宮殿、美しい園林、誇り高い芸術品などを残しました。

1949年10月1日、中華人民共和国が成立し、北京は再び新中国の首都となり、全国の政治、文化と国際交流の中心となりました。新生中国の首都北京は建国50年来、特に、改革・開放後の20年あまりの間に、急速な発展を遂げました。古都の風貌を保ちつつ、国際的な大都会を目指して、北京は前進しています。

## 面積と人口

中華人民共和国の首都北京は中央政府の所在地で、全国の政治、文化と国際交流の中心です。

北京は華北平野の西北部にあり、河北省に囲まれ、東部の一部は天津市と接しています。面積は16808平方キロメートルで、市街地と近郊の面積は1369.9平方キロメートルです。最新集計（2004年現在）によると、北京市の人口は1492.7万人で、移動人口は110万人あまりです。都市部の人口は1151万人、農村部は305万人です。人口密度は1平方キロメートルあたり866人です。出生率は6.1‰、死亡率は5.4‰で、自然増長率は0.7‰となって

います。住民の大多数は漢民族で、少数民族は全市人口の4%を占めています。そのうち、回族、満族、モンゴル族と朝鮮族がもっとも多く、中国の民族政策により、各民族は平和に共存しています。

## 地理と地形

北京の西部、北部と東北部の三面は山に囲まれ、東南部は渤海に面し、穏やかな平野が広がっています。そのため、西北が高く、東南が低い地形を成しています。山岳地帯が多く、総面積の62%を占めています。西部の山地は太行山脈系の山で、西山と呼ばれていて、200キロも続いています。そのうち、門頭溝の西にある霊山は高さ2303メートルで、北京の最高峰です。北部の山地は軍都山といい、燕山山脈に属します。この二組の山地は南口近くで、一つに結ばれるため、東南に向かって大きな山溝を形成し、「北京湾」と呼ばれています。東南部の平地は華北平野の一部で、海拔は最低地点では10メートルにもなりません。

## 水系

北京は昔、水に恵まれたところ、大小30あまりの河川があり、その全長は520キロ以上にも及んでいます。

西北部の河川は海河水系に属し、西には永定河、拒馬河があり、東には潮白河、北運河と洵河があつて、市の西南と東南を貫流し、いずれも渤海に合流します。

北京には湖も多く、中海、南海、北海、西海、後海と什刹海





の通称「6海」をはじめ、昆明湖、玉淵潭など23個の湖が散在しています。

さらに、20世紀50年代から60年代にかけて、北京の近郊に大型のダムが建設されました。官庁ダムと密雲ダムがそれです。貯水量はそれぞれ10億立方メートル以上と40億立方メートルです。市内を走る京密用水路（北京—密雲）は密雲ダムの水をひいて開通したものです。

その後、次々に16個所の中小ダムと10数個所の地下水汲み上げ工場が造られました。

北京は「山高く、水めぐり、形勢は雄偉にして山水の勝境に富む」という中国の古い表現がぴったり当てはまる環境下において、自然の要害の地を占めています。戦乱相次ぐ封建時代の帝王たちがこの食糧と水が豊富で守を固めやすい要害の地を選び、王城の府と定めたのもまた故あることというべきでしょう。

## 気候

北京の気候は典型的な温帯の大陸性季節風気候です。春は短く、4月の初めから5月の下旬まで、約55日間です。この期間には、よく風が吹き、いわゆる砂嵐もこの季節に数回訪れます。北京の春は短いのですが、空気が乾燥し、気温の変化が激しいのです。これに対して、夏は長く、5月の下旬から9月の始めにかけて100日間以上もあります。北京の夏は暑く、気温は38、39度を超える日もあれば、南方のような蒸し暑い日が数日間続くときもあります。しかし、朝、晩は涼しいため、過ごしやすいです。秋は北京で一番いい季節で、春と同じく短いですが（9月

初めから10月末まで約50日間)、さわやかな風が吹き、抜けるような青空が広がり、まさしく天高く、馬肥ゆる季節です。冬はもっとも長く、10月の末から翌年の3月いっぱいまで、あわせて157日間あります。北京の冬は風が強く、乾いた寒気が肌を襲います。しかし、近年、地球の温暖化の影響で冬の気温は年々高くなっています。

北京の年間平均気温は13度で、もっとも寒い時期は1月で平均気温は-3.6度、一番暑い時期は7月で平均気温は27.7度です。

北京には梅雨のシーズンがありません。ですが、7月から8月にかけての2ヵ月間は雨季で、よく雨が降ります。冬には、雪が降りますが、あまり積もりません。ここ数年、干ばつに見舞われ、年間降水量はぐっと減り、最新統計によると、この5年間（1999年～2003年度）の降水量は370mmしかないということです（平年では600mm以上あります）。

## 行政区画

北京は区と県に分かれています。全市は16区と2県から成っています。

都心部には、西城区、東城区、崇文区と宣武区の四つの区があります。第二環状線内に位置しています。ここは銀行や高級デパート、政府機関、大学、病院などが集中していて、昔から商業やサービス業の盛んなところです。しかも、古い北京の市街地にあたるので、古い北京のおもかげが数多く残された区域です。例えば、「四合院」や「胡同」、老舗などがあり、古い北京の人情の漂っている町でもあります。





近郊区は海淀区、朝陽区、豊台区と石景山区の四つです。海淀区は有名な北京大学、清華大学や人民大学など大学の多いところです。また、中国のシリコン・バレーと呼ばれている中関村科学技術開発区もここに 있습니다。このあたりは環境もよく、町づくりも近代的で、文化的な町です。

朝陽区は昔は荒涼なところでしたが、改革・開放後、急速な発展を遂げ、今ではCBD（北京セントラルビジネス区）として建設が行われています。国際貿易大厦や京广大厦をはじめ、多くのオフィスビルが立ち並び、また各国の大使館もここに 있습니다。ホテルや高級レストランが随所にあり、国際的な雰囲気のある町です。オリンピック大会選手村もこの区内に建設されています。

豊台区と石景山区は工場や製造業が集中しているところで、首都鉄鋼コンビナートは石景山区に 있습니다。

遠郊区は次の八つです。門頭溝区、房山区、通州区、順義区、昌平区、大興区、平谷区と懷柔区です。そのほかに、密雲と延慶の2県が 있습니다。これらはいずれも北京の衛星都市的な役割を果たしており、今では、バスや電車が開通し、行き来が非常に便利になりました。ここには、名所旧跡が多く、観光には絶好なところです。万里の長城や明の十三陵のほかにお寺や湖、森、谷、草原、洞穴など自然の姿をそのまま保っているところばかりです。

また、これらの区や県で、農業を営んでいる人口は300万人余りで、主に野菜、果物など経済作物を作っています。例えば、平谷区の桃や、大興区の西瓜が名産です。休日になると、多く

の市民は家族を連れて、これらの名所を訪れたり、農家に一泊して、農家の生活を味わったりして、週末を楽しんでいます。

## 交通事情

北京は中国の交通の中枢をなしています。空路、陸路ともに発達し、国内はもとより、世界各地にも早く、しかも安全に行けるようになっていきます。

経済建設の需要を満たし、ここ20数年来、北京の交通事業は著しい発展を見せています。道路の全長は18239キロメートルに上り、天安門を中心に都心部を囲む第二、三環状線に続き、近郊を回る第四、五環状線が完成し、開通しました。現在、第六環状線の建設中です。その上、東西南北へ通じる高速道路や国道が11本あり、全国に行き渡る交通網が完成し、道路交通が非常に発達しました。

北京市内の交通手段は主にバス、地下鉄、都市電車とタクシーですが、これらは、いずれも拡大され、北京市の1400万人余りの外出者の需要を満たしています。今、バスの本数はなんと700本余りで、市内だけでなく、近郊、遠郊まで運行されています。また、市内バスの運行距離が延長されて、途中乗り換えずに目的地に着けるようになりました。しかも、本数が増えてきたので、昔のような混雑さがなくなり、快適になりました。

現在、北京で運行している地下鉄は3本で、新しく開通した都市電車が1本あり、全長は113.4キロメートルです。2008年のオリンピック開催までにはさらに10本増やし、その全長は300キロメートルに達し、巨大な都市交通網が建設される予定です。





今は市民の収入が増え、生活の質も向上しています。その証拠の一つとして、自家用車の急増ぶりが挙げられます。今、北京市の自動車の台数は220万台を超えているといわれています。この日増しに増えている自動車に、道路建設はいくら急いでも間に合わず、これによってもたされた交通渋滞と大気汚染は北京市政府と市民にとって頭痛の種となっています。これに対応し、解決するために政府はいろいろな措置を施しました。まず、自動車の廃気排出量を厳しく規制し、欧州第2号排出基準（一酸化炭素の排出量は2.2g/km以下、炭化水素の排出量は0.5g/km以下）を実施させています。そして、できるだけ公共交通機関を利用するよう奨励しています。例えば、道路にバス専用線が設けられ、さらにバスの快適度を高めるため、クーラー付きの車両が増えてきました。最近、また「新しい道路交通規定」が打ち出されました。この規定では交通ルール違反に対する懲罰がいっそう厳しくなり、人を基本とする理念が表わされています。これらの規制や規定によって交通渋滞の緩和を図り、人々の交通秩序を守る意識を高め、道路の利用率の向上を図っています。

北京の当面直面している交通の諸問題を解決するには全面的に調整するよりほかはないと思われます。

## 教育、文化および科学技術

北京は中国の文化の中心です。ここには、中国で名高い北京大学、清華大学があり、大学数は73校を超えています。義務教育はもとより、高校、大学および各種の専門技術学校の就学率

は年々上昇し、総入学率は49%となっています。最新の集計（2004年）によると、北京市民の平均教育年数は9.9年だということです。

北京はまた、科学・技術、ハイテク産業の発達した地域で、認可されたハイテク企業は1万を突破しています。主な産業にソフト産業、マイクロ電子産業、バイオテクノロジー、新医学、薬学と新素材産業などがあり、それぞれ開発・設計園や基地を持っていて、着実に研究と開発が行われています。そのうち、中関村科学技術園が一番大きく、海外から帰国したエリートや国内の有能な科学者がそこに集まり、ハイテク領域のリーダーシップをとっています。なお、世界のベスト500企業の中の293個は、北京に開発センターあるいは代表事務所を設立し、北京のハイテク産業の進展を促しています。


また、北京には多種多様な博物館や芸術・美術館が100以上もあります。規模が一番大きいのは故宮博物院と国家博物館です。最近、青少年向けの無料参観日が設けられ、市民の好評を博しています。

北京の出版業はここ数十年、急速な発展を見せています。今、年間発行部数は5802万冊に上り、各種雑誌、新聞紙は222種類あり、発行部数は10億部に達しています。繁華街の西単にある北京図書大廈と東単の王府井新華書店はもっとも大きな書店で、そこには各分野、各種類の図書がそろっており、いつも多くの人で賑わっています。

北京にはアジアで一番大きい図書館である「国家図書館」があります。そこには図書、文献資料があわせて2411万冊も保有さ







れており、すべてコンピューターで管理されています。一般図書は開架式で、貸し出しや閲読のための手続きも簡略化されており、カード1枚で、誰でも利用できるようになっています。

経済の発展につれて、北京市民の生活は豊かになりました。衣食が満たされると、人々は精神文明の向上と文化的な生活の豊かさを求めるようになります。そして文化市場の繁栄、文化事業の発展が促進されることになります。現在、毎月、新しく上映される映画は数本あり、その中には外国の映画もあれば、香港の映画もあります。そして、新しいスタイルの新劇も受けがいいようで、テレビでは24時間やっています。さらに国際交流も盛んで、世界レベルの音楽会や国際試合、大規模な展示会などが開催され、数多くの市民を楽しませています。

## 大衆スポーツ

社会が進歩するにつれて、人々の健康への関心度が高まりました。また、2008年のオリンピック開催が決まったのをきっかけに、大衆のスポーツ活動が盛んに行われるようになりました。今、北京市では、スポーツ活動に参加している人々は500万人を超え、住民の40%を占めています。人々はそれぞれ自分の条件に適した健康法を選んで体を鍛えています。朝、公園や団地の空き地で太極拳をやったり、散歩したりする人もいれば、空気のいい郊外へ行って、山登りやハイキングをする人もいます。朝や夜ともなると、町の随所で銅鑼や太鼓の伴奏に合わせて、ヤンコ踊りをする市民が見られますが、これは誰でも踊れるように祭りや祝祭日の踊りを改造したものです。色鮮やかな衣装